



魂が号泣する感動の104分

うまれる

—— 映画「うまれる」上映会企画趣意書 ——

映画「うまれる」山形上映会実行委員会

はじめに

誕生学に出会わなければ
今のワタシ はいなかった。

小さかった頃のこと 辛かった思い出
そこを生きてきた 生きざま
そして、今ここ にいるジブン。

生まれてきた喜びより
むしろ 辛く悲しい道をどうやって進んでいこうか
と考えていた日々を 今は こうして 静かに見つめられる。

そして、『誕生学』に辿り着いたこと。

生きていることに喜びが存在することも
人と人が温かく繋がることも知らずに
一度きりの人生を終えていたかもしれない。

そして、
誕生学に出会わなければ
『うまれる』という映画に
こんなにも引き寄せられることはなかった。

ドキュメンタリー映画『うまれる』は まさに
人の生きざま を そのまま映しだした映画。

命 と向き合い
命 とは何かを問い

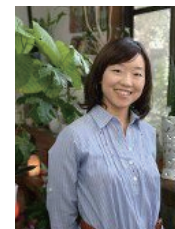
最後には 今 生きている ジブンの命を 愛おしく思える

喜べるジブン 生きていることが楽しくなる
人と人とが温かく繋がる 喜び
これからの未来がキラキラと輝き始める そんな映画なのです。

まさに、ワタシが進みたかった 輝ける生きる道。
それを リアルに映像に映し出して 教えてくれた映画を

たくさんの人と共に観たいと思ったのです！
たくさんの人と感じたいと思ったのです！

生きる喜びを！
これが 私がこの映画を うまれた地 山形 で上映したいと
強く願っている理由 です。



映画「うまれる」山形上映実行委員会 代表
誕生学アドバイザー
わだ ゆきこ

映画との『出会い』

昨年秋、私が学んでいる「誕生学（いのちのお話）」の研修会場で一枚のポスターが目にとまりました。

お子さんを抱きながら、思いっきり笑っているご夫婦。

その笑顔をしばし眺めてしまいました。

映画『うまれる』との最初の出会いです。

研修講師であった誕生学の生みの親大葉ナナコさんがこの映画のスタッフとして入られており、「おススメだから、ぜひ見て！」の声のままに、東北は仙台での上映初日に映画を観に行くことにしました。

チラシを手に取り映画の概要を読むと、とても悲しい映画のように思えて、観ることに気が進まなかった想いがあったのを覚えています。

そして、上映後。

言葉にできない『ココロからの感動』を体中で感じている私がありました。

映画に感動しました。

ストーリーに感動しました。

でも、一番に感動したのは、

『 いま、ここにいる自分 』『 わたしがうまれてきたこと 』
を 今まで感じたことがないくらい『喜んでいる自分』に感動したのです。

この映画は「うまれる喜び　生きる喜び」を教えてくださいます。

素敵な笑顔の4組のご夫婦の物語を通じて
自然にそのメッセージが伝わってくる。

そんな映画に出会えたことが、とても幸せでした。

泣くために、
愛する
ために。

うまれる



上映後の活動

仙台での上映後「この映画を多くの人に観て欲しい」と強く感じました。

そして観終わった後に「しばらく映画館で余韻に浸りたかった」「共に観た仲間と感想をシェアしたい。想いを伝えあいたい」と感じたことをもとに、この映画の魅力を、多くの方が最大限に感じられるような形で上映したいと思いました。

その後山形での上映があったため、映画館に電話をして上映初日終了後に、映画を観た方と感想をシェアリングするトークセッションをさせて欲しいと申し入れました。

「この映画を多くの方に観て欲しい。観た方がココロの感動を多くの方と分かち合い、それを観ていない方に伝えて頂きたい。そのために、観た方とトークセッションをさせて欲しい。この映画、ただ観るだけではもったいない映画です！」と。

その後企画が通り、書店でのチラシ設置やメディア取材を受けたこともあり、山形上映初日に 100 名を動員。満席でした。

トークセッションにも定員超のお客様が参加してくださり、涙あり笑いありの、とてもとても温かな、そしてこの映画を味わい尽くす時間となりました。

そして、その数ヶ月後。

トークセッションに参加して下さったお客様のお一人が、酒田市でも上映会をしたい！と上映会を企画。私にトークセッションの依頼がありました。

その上映会も大成功。約 400 名を動員しました。

私は上映 3 回全てでトークセッションを開催し、酒田市でもじんわりとココロが熱くなる一日となりました。

そして、このたび満を持して山形市で上映会を企画。

山形市での上映会も、多くの方のココロが映画を通じて繋がり、温かな「生きるチカラ」がうまれる場にしたいと思っています。

3. 11 から 1 年を越えた、来年 4 月。

この山形の地で、映画「うまれる」を通じて、

もう一度

『生きていることの素晴らしさ』『うまれたことの奇跡』を多くのかたに感じて欲しいと強く願っています。

泣くために、
愛する
ために。

うまれる



映画『うまれる』上映会を

平成24年4月14日(土)に、遊学館 ホールで開催します。

主 旨：ドキュメンタリー映画『うまれる』自主上映会イベント

日 時：平成24年4月14日土曜日

場 所：遊学館 ホール

人 数：約500名

上映回数：午前・午後各一回(予定・時間未定)

午前中は子連れで見れる『ママさんタイム』

内 容：映画上映と上映後のトークセッション(監督講演 検討中)

チケット：1,200円(前売り1,000円)

☆パンフレット等の物販あり

☆託児スペース 検討中

「うまれる」とはどんな映画？

映画『うまれる』とは、
自分たちが産まれてきた意味や家族の絆、命の大切さ、
人との繋がり、そして"生きる"ことを考える、ドキュメンタリー映画です。

1

ストーリー

両親の不仲や虐待で親になることに戸惑う夫婦、出産予定日に我が子を失った夫婦、子どもが授からない人生を受け入れた夫婦、完治しない障害を持つ子を育てる夫婦と、命を見つめる4組の夫婦が登場。妊娠・出産だけでなく、流産・死産、不妊、障害、などを通じ、『うまれる』ということ、出産、親子関係やパートナーシップ、そして生きるという事を考える・感じることのできる映画です。

2

概要

●製作年・・・2010年 ●上映時間・・・1時間44分 ●スクリーン・サイズ・・・ピスタサイズ(16:9) ●サウンド・・・DTSステレオ ●企画・監督・撮影・・・豪田トモ ●プロデューサー・・・牛山朋子 ●ナレーション・・・つるの剛士 ●コメンテーター(出演者)・・・大葉ナナコ、池川明、鮫島浩二、岡井崇、見尾保幸、吉村正(日本を代表する産科医・お産のエキスパートの方々です)

3

製作のきっかけ

カナダで映画製作を学んだ豪田トモ監督は、「子供が親を選ぶ」という考え方を聞いた事をきっかけに、長年わだかまりのあった、【自身の親子関係を見つめ直すために映画製作をスタート】しました。製作しながら両親への感謝が湧き出、親子関係が劇的に良くなった豪田トモ監督は、「自分のようなポジティブな変化が観ていただいた方にも起こったら嬉しい」と語っています。

4

映画の反響

各方面で非常に高い評価。Yahoo!映画のレビュー・ランキングでは、公開当初は何度か【歴代一位】を獲得。NHK(『おはよう!日本』、『特報首都圏』)や日本テレビ(『NEWS ZERO』)等のテレビ番組の他、読売、朝日、毎日、産経、その他各地方新聞に特集される。また、AERAや週刊朝日、たまごクラブなどの雑誌、J-WAVEなど多数のラジオでも取り上げられています。

5

映画鑑賞の効果

◎自分がいかに奇跡的な存在であるかという事、そして産まれて来た全ての命がどれほど尊いかという事がわかる ◎産んでくれた、育ててくれた両親への感謝。両親だけでなく、支えてくれている周りの人々や社会への感謝が芽生える ◎障害があったとしても懸命に生きている命・育てている家族があるという事を知ることができる ◎みんな違ってみんな良いという事に感動する

6

有名人の応援メッセージ

この映画は、たんなる出産ドキュメンタリーなどではなく、出産を切り口にした『親子の物語』なのだと思う。親に、深く、深く、感謝した。

乙武洋匡(作家)

「誕生」を通してそれぞれの人間ドラマがかいま見えました。そのどれもが儚なく危うい存在で、全ての命そのものが奇跡のように感じられた作品でした。

鶴田真由(女優)

映画『うまれる』上映会で期待できる 4つの効果

1

地域を超える! 人がつながる!

地域で上映会を開催しますと、これまで名前や顔は知っていたものの話をした事がなかった、という人々が、映画によってつながり始めます。普段お付き合いしている人たちの枠を超えて、地域で盛り上げて行く。それによって、普段お付き合いする機会のなかった人たちとの絆ができ、地域が活性化していくきっかけになるのでは、と期待しております。

2

親への感謝のきっかけに。

映画『うまれる』を鑑賞することで、日本の未来を担う学生、生徒のみなさんに、命の大切さ、家族の絆、そして、自分自身の存在の奇跡などを感じていただくことができます。「当たり前だと思ってたけど産まれる事・生きる事って凄いんだ」、「両親に感謝しなきゃ」、「周りの人を尊重して生きて行きたい」など感謝の気持ちが自然と芽生えます。

3

その後の交流につながる。

親との関係や子どもとの関係、パートナーとの関係など家族について、または生き方そのものに悩んでいた、身近に様々な『うまれる』経験をされている方がいらっしゃいます。映画を観た後に感想を話し、聞き、語り合う場を設けていただければ、きっと地域の皆さまと心がつながり、穏やかな気持ちになると思います。

4

仲間ができる。

上映会はチームをつくり開催します。10~20人くらいで集まってワイワイと楽しく運営することで、チームワークのつくり方を学ぶことができます。また、テーマや目的の設定、対象の選定、スケジュールリングとプランニング方法など、上映会の運営・集客ノウハウを学ぶことができます。会社以外の仲間とつくりあげるイベントには大きな感動が生まれます。

映画の感想

生の感情がたくさん詰まっていました。

とにかく冒頭から涙腺が緩みっぱなしで、事前に書籍を読んでいた事もあり、内容とリンクする部分も映像で見るとまた違う思いがこみ上げてきて、泣いたり笑ったりと忙しい1時間40分でした。出産ドラマや映画などは、いくつか出ていますが、この「うまれる」はドキュメンタリー映画ということがすごくポイントだと思います。

フィクションではない、リアルな感情。出演者の方々がそのとき感じた思い、葛藤、時には涙しながら・・・人にあまり話すことのない、心の奥底の思いまで、この映画のために、未来のために、自分の経験が役に立つなら、、、と、とても勇気のある決意で出演している方々。

けてドラマでは見ることでできない、生の感情がたくさん詰まっています。妊娠・出産を通して、自分の存在意義や命の意味、愛し方を知る。出産映画という括りではなく、まさに命の映画、という感じでした。

どんな形であれ、うまれてきたこと(命が始まったこと)事態がすでに素晴らしいですね。それはたとえ、生まれることのできなかつた命でも、受精した瞬間から命は始まっています。そして。生まれてきたこと、それだけで100%二重丸!

どんなお産になっても、赤ちゃんとママが無事で生まれること。それが一番、大前提で、後はオプション、付属品だと思えば、思うような出産にならなくても、後悔することは少なくなるのかな・・・と思います。「うまれる」を通じて、絶対に正しい生み方や生き方なんていうのは無いんだ。皆それぞれ違って、皆良いんだ(有名な詩のぱくりみたいですが・・・)ということ強く感じました。そして、次世代にいのちのバトンをどんどんつないでいけたら素敵ですね。

20代 女性 一児の母

のっけから泣いてしまった。

少子化、高齢出産を始め、育児放棄や虐待、子供の引きこもりや犯罪が多発してる現代、非常に意味のあるドキュメンタリーだと思います。自分は映画と言ったらドンパチのギャング系、ホラー、アドベンチャーなど、手放しで楽しめるエンタテインメント映画ばかり見る方なので、こういったドキュメンタリーをスクリーンで見ることは初めてだったけど、オレはのっけから泣いてしまった。

いや、オレだけじゃなく、あちこちで涙を拭う人は多かった。文明文化が発展して、どこことなく人間らしさ、人間的な温かみが希薄になりつつある今、「人類の命のリレー」の大切さにおいて、課題というか宿命というか、ある意味「義務」を改めて一人一人が考え、感じていてもいいんじゃないか、とそんな風に初めて思えたかな。

自分も結婚はしているのですが、子供はまだなので、凄く、何と云うか、相変わらずの恐怖と期待、希望みたいな...、果てしないテーマであるようで、また身近な事象のような...。生命リレーの神秘に、より身近に触れられた機会(映画)でした。

子を持つということは、人生の大きな喜びであり、同時に、人生最大の責任問題でもあると思うと、自分の今の人間性でその資格があるのか?という、恐怖にも似た感覚がつきまとっています。しかし、このタイミングで映画「うまれる」を観た、ということは、きっと「授かりなさいよ」と何かに言われているような、そんな気がしています。

素晴らしいモノが生まれたと思います。特に、これから出産を考える人達(旦那を含め)で、不安やトラブルを抱えている人がいるなら、というか、大概不安はあると思うので、そんな人達には是非お勧めします。

30代 男性 mercy

お問い合わせ

**家族は大切だ、命はかけがえがない、
という事は、誰でも頭では分かっている**
と思います。

しかし、日々の生活の中で、
どうしても「当たり前のこと」のように思えてきてしまいます。

それは、
大切な事を「心で感じる」機会が少ない
からではないかと私たちは考えています。

涙と共に心の底から、そして細胞の一つ一つに伝わる機会があれば、
現在の、そしてこれからの悲しい事件や親子の諍い、
育児ノイローゼそして自殺や鬱、ひきこもりなどの
解決への足がかりになるのではないかと確信しています。

映画『うまれる』がそのきっかけになることを切に願っております。

ご質問・お問い合わせは

映画「うまれる」山形上映実行委員会

代表 わだ ゆきこ TEL:090-6850-0610 E-MAIL:nagi001@hotmail.com